



03 避難所へ移動開始

同防災クラブによる高齢者や要介護者世帯の確認が行われ、担架搬送などの救助や住民の名簿確認を終えた。地元消防団の誘導で、町やボランティアが炊き出しや給水を行っている、避難所の町公民館福田分館へ避難を開始。



02 町が災害対策本部を設置

福原地区からの報告を受け、総務課長が町長に報告。すぐさま町職員が招集され、災害対策本部が立ち上げられる。町内の各区長、消防団、関係機関を通じて地震の被害状況や負傷者の情報収集にあたる。



01 災害発生、訓練開始

8時30分、震度6強の地震が発生した想定で訓練が始まった。福原地区の有川区長が町役場に被害状況を報告する。福原地区自主防災クラブが名簿で一時避難所の福原公民館に避難してきた住民の把握に努める。



06 災害時に役立つ技術の講習

訓練終了後、担架搬送の仕方、心肺蘇生法、消火器の使い方などについて、消防隊員による講習が行われた。

町職員や防災ボランティアによる物資搬送・供給、給水支援、炊き出し訓練も並行して行われた。



05 避難完了、訓練終了

避難所では避難者の名簿記入と血圧測定が完了し、今回の訓練は終了した。「救急や消防が到着するまで7～8分。その間は自分たちで自分を守るしかありません」。災害発生時の初期行動の大切さが消防隊員から伝えられた。



04 続々と入る情報を集約

災害対策本部では情報収集の電話対応に追われる。住民や区長から続々と集まる情報を地図上に書き込んでいく。「〇〇でけが崩れが起こった」「〇人が倒壊家屋の生き埋めになっている」など危機迫る内容を冷静に処理。

町内で初の自主防災組織が発足



福原区長
ありかわ ひでお
有川 英雄 さん

私たちができる範囲の協力を
平成25年度から区長になつて、地区全般のことに携わるようになりました。消防団や若い人たちがいない日中に、火災や大きな地震が起こったなら、残っている高齢者だけでは対処が難しいという現実につき当たりました。

このことから「私たちの土地は私たちが守らなければ」という思いが募り、自主防災組織の立ち上げに至りました。

もちろん体力がいることは高齢者には難しいと思うので、できる範囲で災害に備えたいと考えています。

例えば、消火栓の場所などを把握しておくこと。実際の火災になった場合などは緊急車両を現場に誘導したりする。

将来的には、協力できる組織になればと思っています。